様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：３４６０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０９０７

研究課題名（和文）斑鳩地域における古墳時代から古代への転換形態の研究

研究課題名（英文）A case study of change from Kofun prriod to Asuka period in Ikaruga area

研究代表者
豊島　直博（TOYOSHIMA, Naohiro）

奈良大学・文学部・准教授

研究者番号：９０３０４２８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、奈良県斑鳩大塚古墳の発掘調査、寺山古墳群、甲塚古墳、亀塚古墳の測量調査を行った。斑鳩大塚古墳は直径43メートルの円墳で、東に造り出しと考えられる突出部が付く可能性が高まった。また、幅８ｍの周濠が巡る。墳丘には埴輪を樹立し、葺石を施す。出土遺物から、築造時期は５世紀前半とが判明した。寺山古墳群は円墳３基、方墳１基からなる初期群集墳である。甲塚古墳は墳丘の一部を大きく削平されているが、直径30メートルの円墳である。亀塚古墳は直径11メートル前後の小規模な円墳である。
　調査成果により、斑鳩における首長系譜の動向を把握できた。今後は別の未調査古墳の測量を実施する予定である。

研究成果の概要（英文）：In this case study,we excavated the Ikaruga Otuka tumb for three times.we can find that a mound of this tumb is about 43m,and have a ditch.In these excavation,so many Haniwa pottery appeard.From these,we can find this mound was built at 5th century.We mesured the Terayama tumuli,the Kabutoduka tumulus and the Kamedukatumulus.Terayama tumuli are small four moundes tumuli built at 6th century.The Kabutoduka tumulis have round mound,the length is about 30m.It was built at 7th century.The Kameduka tumutus havu round mound,the length is 11m.It was built at 6th sentury.We can find that there is an empty years for 150years from appear of the Ikaruga Otuka tumulus to the Fujinoki tumulus.

研究分野：考古学

キーワード：古墳　首長系譜　斑鳩大塚古墳　寺山古墳群　甲塚古墳　亀塚古墳

１．研究開始当初の背景

日本における国家形成過程の研究は、古墳時代を初期国家段階とみる考古学研究者の見解と、律令国家の完成をもって国家とみなす古代史研究者の間で対立する状況が続いている。私は古墳時代の鉄製武器を研究する過程で、古墳時代を初期国家段階ととらえる説に賛成したが、都城や飛鳥の遺跡を調査するうちに、７世紀を国家段階とみなす見解にも魅力を感じるようになった。この論争を解決するには、特定の地域を舞台に綿密な遺跡の動向を解明し、国家形成を論じる方法が適切である。

奈良県斑鳩地域には、約 70 基の古墳が存在する。藤ノ木古墳や竜田御坊山古墳など、後期から終末期のかけての古墳が充実している。また、斑鳩宮、法隆寺、中宮寺、法起寺などの古代宮殿、寺院遺跡も豊富である。斑鳩を舞台に古墳時代から古代への変遷を追えば、考古学と古代史の間で論争が続く国家形成論に解決の糸口を見いだせるのではないか。以上のように考え、本研究に着手した。

２．研究の目的

本研究の目的は､大きく 2 点に大別される。

（１）斑鳩における首長系譜の変遷を解明すること。先述したように、斑鳩には 70 基の古墳が存在するが、発掘調査された古墳は少なく、規模、墳形、副葬品の内容、年代的位置づけが明らかでないものが多い。本研究ではそれらの未調査古墳について、様々な考古学的手法を駆使して実態を解明し、首長系譜の空白を埋めることが第１の目的である。

（２）古墳時代における首長系譜の変動と、古代における遺跡の展開を関連づけて考察すること。

従来の古代国家形成論は、古墳を対象とする考古学的研究と、都城や寺院を対象とする研究、さらに文献史学の研究が個別に行われてきたため、国家形成に対する相互理解が得られなかった。本研究では、古墳に関する考古学的研究を柱とするが、その他の研究分野を積極的に取り入れて国家形成過程を総合的に考察することが目的である。

３．研究の方法

（１）測量調査　首長系譜の動向を解明するためには、古墳の形と規模を明らかにしなければならない。そのため、斑鳩で墳丘測量図が存在しない古墳を選択し、墳丘とその周辺の測量調査を実施する。調査の候補として、寺山古墳群、甲塚古墳、亀塚古墳、戸垣山古墳などが挙げられる。

測量調査は調査補助として雇用する奈良大学の学生を中心に行うため、大学が休みとなる夏期に行う。調査方法はトータルステーションを用いる基準点測量と平板実測を組み合わせて行う。

（２）発掘調査　測量調査の成果に基づき、古墳の発掘調査を行う。調査対象として、まず斑鳩大塚古墳が挙げられる。斑鳩大塚古墳は 1954 年に忠霊塔の建設に伴う発掘調査が行われ、豊富な遺物が出土しているが、墳丘に関する情報が不足している。測量調査の結果、従来の見解よりも規模が大きくなると考えられるため、墳丘周辺部の発掘調査を行う。

現地は現在、墳丘が部分的に残存し、周辺部は水田や畑となっている。また、発掘調査は奈良大学の学生を中心に行う。そこで、農閑期と春期休暇の重なる２～３月にかけて発掘調査を行う。なお、2013 年 11 月に実施した墳丘周辺の地中レーダー探査では、墳丘の周囲に従来は想定されていなかった周濠が巡る可能性が高まった。そこで、調査区は周濠と前方部の有無を確定できる位置に設定する。

発掘調査で出土した遺物は奈良大学文学部文化財学科に搬入し、調査終了後から遺物整理に着手する。また、斑鳩町文化財センターにおける速報展示、奈良大学博物館における特別展などの機会を活用し、積極的に情報公開する。調査の成果については年度ごとに発掘調査報告書を刊行する。

４．研究成果

（１）斑鳩大塚古墳の調査成果　斑鳩大塚古墳の調査は 2014～2016 年度の３年間にかけて実施した。第１次調査では、墳丘の北側で幅約８m、深さ 80 ㎝の周濠を確認した。しかし、前方部の有無は確認できなかった。続く第２次調査では、墳丘北側の別の箇所で周濠を確認した。また、墳丘東側で墳丘の一部が東に続くことを確認した。第３次調査では、東側の張り出しは前方部というには小さく、造り出しである可能性が高まった。また、墳丘の南側でも周濠を確認した。第４次調査では、造り出しの北東隅付近を確認した。ただし、墳丘は７世紀にすでに削平されており、葺石や埴輪を原位置で確認できなかった。

図１　墳丘の検出状況（４次調査）

以上を総合し、斑鳩大塚古墳は従来想定されていた直径 35mの円墳よりも一回り大きく、直径 43mであることが判明した。また、東側に造り出しの可能性が高い張り出し部が付

く。さらに、墳丘の周囲に幅８m、深さ 80㎝の周濠が巡ることが明らかになった。
調査では毎回、10 箱程度の遺物が出土し、総量は 40 箱にのぼる。内容は埴輪、土器、瓦、木製品、石製品など多岐にわたる。埴輪には円筒埴輪と形象埴輪がある。円筒埴輪の製作技法の特徴から、古墳の築造時期は５世紀前半であることが判明した。また、周濠の上層から７世紀の須恵器が多数出土しており、周濠の埋没年代もその頃と想定される。

図２　出土した円筒埴輪

（２）寺山古墳群の測量調査　寺山古墳群は、法隆寺の北側、尾根上に分布する古墳群である。2015～2016 年度にかけて、奈良大学文学部文化財学科が斑鳩町教育委員会の協力を得て測量調査を実施した。調査はそれぞれ８月に実施し、調査期間はどちらも２週間程度である。調査の結果、１号墳は直径約 23mの円墳または全長 30mの前方後円墳、２号墳は直径約 20mの円墳、３号墳は一辺約 19mの方墳、４号墳は直径約 13mの円墳であることが判明した。いずれも墳丘は低いことから、埋葬施設は横穴式石室ではなく、木棺直葬など竪穴系である可能性が高い。寺山古墳群は斑鳩地域では数少ない初期群集墳である可能性が高まった。

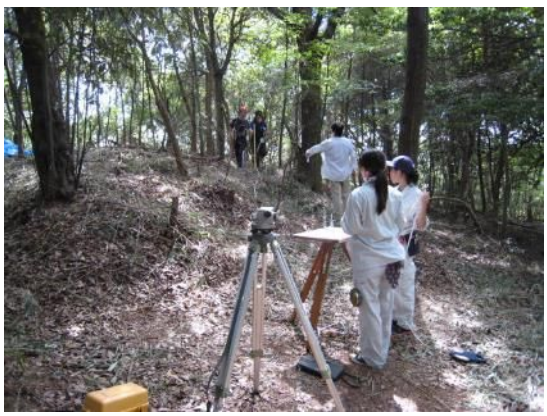

図３　寺山１号墳の測量風景

（３）甲塚古墳の測量調査　甲塚古墳は藤ノ木古墳の西約 150mに位置する単独の古墳である。2016 年度に奈良大学文学部文化財学科が斑鳩町教育委員会の協力を得て測量調査を行った。

調査の結果、甲塚古墳は墳丘の北側が大きく削平されているものの、直径約 30mの円墳である可能性が高いと判明した。また、丘陵先端付近にある立地から、藤ノ木古墳に後続

図４　甲塚古墳の測量風景

する有力首長墳と考えられる。今後、発掘調査による実態把握が必要である。

（４）亀塚古墳の測量調査　亀塚古墳は藤ノ木古墳と斑鳩大塚古墳の中間に位置する古墳である。住宅地に囲まれ、これまでまったく調査されたことがないため、2016 年度に測量調査を行った。その結果、墳丘は周囲を大きく削平されているが、直径 11m以上の円墳である可能性が高まった。また、墳丘の南斜面に石室石材らしき石が露出しており、横穴式石室をもつ後期古墳と考えられる。
以上のように、３年間で斑鳩大塚古墳の発掘調査、寺山古墳群、甲塚古墳、亀塚古墳の測量調査を実施し、各古墳の基礎的なデータを得ることができた。斑鳩では中期前半における斑鳩大塚古墳の築造から、後期後半における藤ノ木古墳の築造まで、有力な古墳が見当たらない。有力な勢力の不在が、上宮王家の進出する一要因となったのではないかと考察した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４件）

① 土屋博史・豊島直博、奈良県斑鳩町甲塚古墳・亀塚古墳測量調査報告、文化財学報、査読無、第 35 集、2017、１－６頁
② 豊島直博・間所克仁・宮畑勇希、奈良県斑鳩町寺山３・４号墳発掘調査報告、文化財学報、査読無、第 34 集、2016、37－43 頁
③ 豊島直博、斑鳩大塚古墳の発掘調査、奈良大学紀要、査読有、第 44 号、2016、93－98 頁
④ 川村萬里・高左右裕・豊島直博、奈良県斑鳩町寺山古墳群測量調査報告、文化財学報、査読無、第 33 集、2015、49－54 頁

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　３件）
① 豊島直博・土屋博史編、斑鳩大塚古墳発掘調査報告書Ⅲ、査読無、2017、全 21 頁
② 豊島直博・間所克仁編、斑鳩大塚古墳発掘調査報告書Ⅱ、査読無、2016、全 22 頁
③ 豊島直博編、斑鳩大塚古墳発掘調査報告書Ⅰ、査読無、2015、全 21 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
豊島　直博（TOYOSHIMA, Naohiro）
奈良大学・文学部・准教授
研究者番号：90304287

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
重見　泰（SHIGEMI, Yasushi）
奈良県立橿原考古学研究所・主任研究員
研究者番号：70443570

魚島　純一（UOSHIMA, Jyunichi）
奈良大学・文学部・教授
研究者番号：10372228

(4)研究協力者
荒木　浩司（ARAKI, Koji）
斑鳩町教育委員会・文化財係長